

家庭科教育における意思決定能力と批判的思考力に関する教材開発

Teaching material device about decision making and critical thinking
on Home Economics Education

土 橋 由 紀* 志 村 結 美**
DOBASHI Yuki SHIMURA Yumi

要約：本報告は、意思決定能力と批判的思考力（クリティカルシンキング）の概念を整理し、大学生の批判的思考力の実態を明らかにし、その結果を踏まえ、高等学校家庭科におけるパソコンを用いた意思決定能力と批判的思考力の育成を目指した教材開発を行うことを目的としている。結果、本調査対象者である大学生は自己の立場を認識し、誠実に物事を判断することができるが、客観的に判断する力、情報を集める力、物事を懐疑的に捉える力が弱い傾向が明らかとなった。それらを踏まえ、意思決定能力、批判的思考力に関係が深い高等学校家庭科における消費者教育のパソコン教材「見て、知って、考えて、消費者として暮らす」を開発し、授業実践を行った結果、意思決定能力と批判的思考力の育成に一定の成果をあげることができた。今後の課題は、高校生の実態にあったさらなる教材開発を行うことである。

キーワード：家庭科教育、意思決定能力、批判的思考力、教材開発

I . 研究目的

現在の青少年は、自制心や規範意識の希薄化、生活習慣の確立が不十分であることや問題行動等、いじめや自殺、体力の低下など、心と身体状況について課題が少なくない。また、自己肯定感が低い傾向にあり、学習や将来の生活に対して無気力であったり、不安を感じたりしている子どもが増加しているとともに、友達や仲間のことで悩む子どもが増えるなど、人間関係の形成に困難かつ不得手になっている現状が見られている¹。

一方、生活のマネジメント力の低下により、自己破産や多重債務に陥る青少年が増加傾向にある。将来の展望を持つことができず、目先の幸福に満足している青少年の実態が消費者問題に反映されていると言えよう。そのほかにも青少年を取り巻く消費者問題は多く存在している。今日、消費者被害は2004年度のピークに比べ減少はしているものの、85万件を超える相談が寄せられている²。2009～2013年度における20歳未満の学生の相談内容の分類を見ると、「安全・衛生」が最も多く、次いで「品質・機能・役務品質」、「契約・解約」が多い³。消費者として安全かつ正しい判断ができる力を身につけることが重要とされる。これらの消費者問題は、社会の一員として生きる高校生にとって身近に起こりうる問題であり、回避するための知識・技術を得るためにも消費者教育は依然として重要である。

2004年6月に消費者基本法が施行され、消費者の自立支援が重視されるようになり、その後、2009年4月に消費者行政の一元化を目的として消費者庁が設置された。2012年12月には自立のための消費生活に関する教育に加えて、消費者市民社会の形成に参画する消費者の育成を目的とした消費者教育推進法が施行され、一層の消費者教育の充実が求められている。

* 教育人間科学部研究生・山梨県立富士北稜高等学校 ** 社会文化教育講座

一方、文部科学省中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について」（2008）では、「思考力・判断力・表現力等」の育成が重要であるとされた。その学習活動として、①体験から感じ取ったことを表現する②事実を正確に理解し、伝達する③概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする④情報を分析・評価し、論述する⑤課題について、構成を立て、実践し評価を改善する⑥お互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させると挙げている⁴。この学習活動のうち、「④情報を分析・評価し、論述する」、「⑤課題について、構想を立て、実践し評価を改善する」等は、本研究のテーマである意思決定能力や批判的思考力と関連性が強く、意思決定能力や批判的思考力を育成することの重要性が認められていると言えよう。

また、答申（2008）において家庭科における改善の基本方針では、消費者教育の推進、資源や環境に配慮する力の育成等の課題を踏まえ、「社会の変化に対応し、学習や実際の生活において課題を発見し、解決できる能力を育成するために、自ら課題を見だし解決を図る問題解決的な学習をより一層重視する⁵」とされ、さらに、改善の具体的事項として、高等学校家庭科では「社会の一員として生活を創造する意思決定能力を習得させることを明確にする⁶」とされた。以上を踏まえて、高等学校家庭科の学習指導要領（2010）において、「意思決定能力」に関する内容は、全ての共通科目において取り入れられ、家庭科教育において育みたい基礎的・基本的な能力の一つとなっている。

自分にあった消費行動を行うには批判的思考を働かせて、意思決定を行うことが重要である。批判的思考は意思決定の過程における重要な思考であり、優れた意思決定を行うには批判的思考が不可欠とされる。これにより高等学校家庭科において、消費者教育を実践するにあたり、意思決定能力と批判的思考力を関連させて授業を行うことは大変有意義であると考えられる。

また、実践にあたり批判的思考力、意思決定能力を育む学習過程として、生徒がより具体的に思考を深めることができる主体的な学習の展開を工夫することが不可欠である。その点からパソコンを用いた教材は、具体的な場面の映像等を取り入れることにより、擬似体験ができ、より身近に捉えることができること、生徒個々人のペースによる主体的な学びができること等により有効であると言える。

そこで、本研究では、意思決定能力と批判的思考力の概念を整理し、大学生の批判的思考力の実態を明らかにし、その結果を踏まえ、高等学校家庭科において生徒が主体的に学習できるパソコンを用いた教材を開発し、その成果の検証を行うことを目的とする。

Ⅱ．研究方法

研究の流れは以下の通りである。

1. 意思決定能力と批判的思考力に関する概念の整理
2. 大学生の批判的思考力の実態調査の実施

調査方法：質問用紙調査法

調査期間：2008年10月下旬～11月上旬

調査人数：A大学大学生 男子24名、女子46名、計70名

調査内容：宮元らが作成した、「批判的思考志向性尺度⁷」を参考に30項目設定し、7尺度で実施したが、分析を簡潔に行うために5尺度にまとめた。30項目はZechmeister & Johnsonによる批判的思考の10の特性に分類されている⁸。

分析方法：SPSSにより、カイ二乗検定と因子を抽出するためのバリマックス回転による因子分析を行った。

3. 高等学校家庭科におけるパソコン教材「見て、知って、考えて、消費者として暮らす」の開発

4. 開発教材「見て、知って、考えて、消費者として暮らす」を用いた授業実践

実践期間：2009年8月26日～9月17日

実践対象：山梨県立普通科高校の4クラス160名の生徒

Ⅲ．結果及び考察

1. 意思決定能力と批判的思考力に関する概念の整理

(1) 意思決定能力

意思決定能力は、人が生涯を通して、健康で主体的な生活を送るために適切な価値判断や行動を行うことができる力として大切であり、「日々の生活は意思決定の連続⁹」で成り立っている。

1) アメリカにおける意思決定の過程

意思決定を成立させるために不可欠である意思決定の過程は、アメリカで1960年代に小学校における消費者教育の一環として取り入れられた。意思決定の過程それぞれが独立した活動としても行われている。クレアモント大学院教授であったPeter.F.Drucker¹⁰やミシガン州立大学のR. Bannisterらが表1のように意思決定の過程をあげている¹¹。

表1 アメリカにおける意思決定の過程

Peter .F.Drucker	①問題を分析する ②定義づける ③目標の設定 ④正しい決断 ⑤決断の実行 ⑥フィードバック	R. Bannister	①目標を定め、問題を明確にする ②情報を集める ③選択肢を集める ④結論を決定する ⑤意思決定をして、行動する ⑥意思決定を評価する
------------------	--	--------------	---

2) 日本における意思決定能力

意思決定能力が家庭科の学習指導要領に採り入れられたのは、1999年告示からである。中教審の答申において、改善の基本方針として挙げられた「環境に配慮して主体的に生活を営む能力を育てるため、自ら課題を見出し、解決を図る問題解決的な学習の充実を図る¹²」という趣旨を受け、自らの生活課題を環境に配慮し、主体的な意思決定の方法を体得することを明確に示している¹³。また、意思決定の過程として、「問題の自覚、情報収集、解決策の比較検討、決定、評価などの過程」が記された¹⁴。以上を踏まえ、現行の学習指導要領(2010)においては、「家庭総合」、「家庭基礎」及び「生活デザイン」の3科目によって、意思決定の育成が謳われて、その重要性が増している。

また、日本家庭科教育学会は、高等学校家庭科における発達段階からみた教育的課題として、「自分の興味・関心、意欲、価値観に立脚し、これを最低限に伸ばし、生活主体者として社会的自己実現をどう図っていくか、という価値判断や意思決定ができる総合的認識を高めていくこと¹⁵」が育むべき力と述べている。さらに個々の自己実現を図るライフスタイルにおいて、生活行動に対して配慮すべき事柄への認識・意思決定能力・批判的思考力をいかに身につけさせるかということが目的とされ、『意思決定の過程』そのものの理解や体得が環境問題と消費者問題の共通の解決方法とされている¹⁶。

意思決定の過程は全てにおいて批判的思考力を常に持ちながら行う過程である。「「考える」ことは批判的思考力を働かせること¹⁷」であり、表2にあげた佐藤らの9つの意思決定の過程では、「③複数の選択肢や方法を考える」、「④主観的、客観的基準によって比較考慮する」等が、批判的思考力と関連が深いと考えられている。

一方、日本消費者教育学会によると、意思決定とは「複数の対象・目標、問題解決方法等から、

各自の決定基準に基づいて、選択し、決定していく過程である¹⁸⁾と述べられている。また、意思決定の過程を「欲求を満足させるためのいくつかの選択肢から最適と思われる答えを選択する過程¹⁹⁾」と記し、表2のように意思決定の過程をあげている。

表2 日本における意思決定の過程²⁰⁾

佐藤ら	①目標を定め、問題を明確にする ②問題解決に必要な情報を集める ③複数の選択肢や方法を考える ④主観的・客観的基準によって比較考慮する ⑤1つの選択肢、方法を決定する ⑥5の行動に責任をもつ ⑦行動する ⑧その結果を評価する ⑨さらなる意思決定を行う	日本消費者教育学会	①目標を特定し、何が問題かを明確にする ②情報を集める ③選択肢を考える ④その結果を考察する ⑤決定して行動する ⑥意思決定を評価し、次の意思決定にフィードバックする
-----	---	-----------	---

以上を踏まえ、本研究では、意思決定能力とは、「問題を定め、自己の生活がよりよくなるよう、情報を集め、比較考慮し責任をもって行動をし、評価を行う力」とする。また、意思決定の過程を生徒が理解しやすいことに配慮し、以下の6つの過程とする。

- | | |
|------------------|-------------------|
| ①目標を定め、問題を明らかにする | ④選択肢を比較し、考慮する |
| ②情報を集める | ⑤決定し、行動する |
| ③選択肢をあげる | ⑥結果を評価し、フィードバックする |

(2) 批判的思考力

1) アメリカにおける批判的思考力

アメリカでの批判的思考力への気づきと認識は1930年代後半に始まり、主に社会科と国語科で主張され始めた用語である。表面に出てきたのは1950年代であり、1960年代は批判的思考の定義の時代といわれるほど多数の定義がなされ、教育の現代化というスローガンとともに脚光を浴びるが、1970年代にはいったん基礎学力重視の声にかき消されてしまう。しかし、1980年に入り再び脚光を浴び、アメリカの教育目標の一つに批判的思考力が掲げられ、アメリカ全域で取り組みが始まり、現在に至っている^{21) 22)}。現在、Ennis (1987) の定義がアメリカ教育界で最も受け入れられている批判的思考力の定義となっている。

表3 アメリカにおける批判的思考力の定義

Glaser(1941)	①自分の経験の範囲内に入ってきた問題やもめごとをじっくり考えようとする態度 ②論理的思考や理由付けの方法についての知識 ③これらの方法を使う技能
McPeck(1981)	問題解決に使われる注意深い確かな思考 無差別的な懐疑ではなく、問題の領域内で省察的な懐疑を適切に使う力
Beyaer(1985)	情報や主張の信憑性や正確さ、価値を決定する過程
Siegel(1986)	理由に焦点を当てることであり、信念や主張する行動の正しさを保証する理由の力
Ennis(1987)	何を信じ、何を行うべきか決めるための合理的で省察的な思考
Paul(1995)	①訓練された、自ら方向を決める思考で、思考の特定のモードや領域に適するように完成された思考 ②知的技術と能力の精通を示す思考 ③自分の思考をよりよく、より明確、より正確に、より防御力のあるものにしようとするときの、あなたの思考についての思考の技法
Smith(1995)	証拠を集め、代替案を慎重に評価して結論に達することにより、先入観を排除する論理的な過程
Browne & Keeley(1995)	①相互に関係した一連の批判的な質問に気づくこと ②適切なときに批判的質問を問い、答える能力 ③批判的思考を積極的に使う欲求
Wade(1997)	しっかりと裏付けのある根拠に基づいて主張を評価し、判断を下す能力と意思
Paul(2001)	①特別な思考様式や思考領域で適切に当てはまる思考の理想系を示す、鍛えられた自発的な思考 ②知的技術と能力の精通を示す思考 ③考えているときに、自分の考えをより良いものとするための、すなわち、より明確でより正確でより弁護できるようにするための、自分の考えについての思考術 ④人間には常に自己欺瞞をしたり、自分の都合のいいように合理化しようとする傾向があるが、そのような思考を常に意識したり、それに対抗しようとする思考

批判的思考力について入門書を書いている Zechmeister & Johnson (1992) は、明確な批判的思考の定義を与えてはいないが、批判的思考＝良い思考とし、また省察的な思考と同じとし、批判的思考は態度と技術からなると述べている²³⁾。さらに、優れた批判的思考を持つ人の特性として以下の10

の特性と、具体的な行動として 30 項目を記している²⁴。

- ①知的好奇心 ②客観性 ③開かれた心 ④柔軟性 ⑤知的懐疑心 ⑥知的誠実さ
⑦筋道立っていること ⑧追求心 ⑨決断力 ⑩他者の立場の尊重

2) 日本における批判的思考力

日本の批判的思考研究には、主に国語科教育、教育学、認知心理学からのアプローチがあり、次のようにまとめられる。

表 4 日本における批判的思考力の定義^{25 26}

国語科教育	井上(2000)	情報の真偽性・妥当性を一定の基準に基づいて判断し評価できるようになること
	三森(2002)	多角的な方面から客観的な検討を加え、ある文章の正当性を検討する技術
教育学	樋口(1996)	自らによる判断、事実や意見の分析、筋道立った手順といった特徴を持つ思考
	樋口(1998)	ある主張や現象の中なら問題点を感じ取り、それに対する自分の考えを根拠に吟味しながら筋道立って主張する思考
認知心理学	樋口(2000)	情報の誤りや矛盾に気づいたり、合理的に意思決定をし、かつその正しさを吟味できる力 一面的な見方ではない柔軟な発想や創造性も追求される
	楠見(1996)	①合理的(理性的、論理的)思考であり、人の話を聞いたり、文章を読んだりするときにはたらし、さらに議論をしたり、自分の考えを述べるときにも働く ②日常語である「相手を批判する」思考ではない。むしろ自分の推論過程を意識的に吟味する反省的な思考であり、何を信じ、主張し、行動するか決定に焦点を当てた思考である ③批判的思考は仮説、視点、疑問、解決、プランなどの生成を含んでいる ④批判的思考を幅広く定義すれば、推論、その基盤、明確化などの基準に従う、目標思考的思考ということができる ⑤批判的思考には、帰納的推論が中心的役割を果たしている。個々の情報を収集し、それに基づいて、選択して、一貫した確かな解釈を構成する ⑥批判的思考は、創造的思考の十分条件ではないが、必要条件として位置づけられている
		適切な根拠(事実、理論などを基にし、妥当な推論過程を経て、結論・判断を導き出す思考過程、あるいは所在の主張・議論において、その根拠や推論過程の適切さを吟味する思考過程
		適切な基準や根拠に基づく、論理的で偏りのない思考
		見かけに惑わされず、多面的にとらえて、本質を見抜くこと
	道田(2000,2001) 中山(2003)	①物事を鵜呑みにせず、見直したり、問い直したりしようとするという態度 ②物事や主張されている論の構造や内容を分析し、合理的・論理的に評価し判断する技術

3) 家庭科教育と消費者教育における批判的思考力

長澤氏は「家庭科において、批判的思考の導入がはからなければならないのは、基本的かつ本質的な生活価値の認識と関わり、意思決定のプロセスにおける思考過程そのものが、価値の認識の確かさを引き出すことができ、一つ一つの思考プロセスを認めながら、考え方を学ぶことができるからである²⁷」と述べている。

家庭科教育では元来より、問題解決の育成が目指されていた。ともすれば問題を解くことに焦点があてられることが多かったが、生徒自身が「問い」をたてるという段階をより重視していくことが求められる。荒井氏は「問い」をたてるからスタートし、批判的思考力を用いて解こうとすることが必要であり、それにより、意思決定が可能になる。自分自身の思考から出発し、体験を積み上げ、問題の特定、選択肢の検討を行うことによって、意思決定能力と批判的思考力を鍛えることができる^{28 29}と述べている。

以下、家庭科教育・消費者教育における批判的思考力の先行研究の一部を表 5 に示す。

表 5 家庭科教育・消費者教育における批判的思考力の先行研究^{30 31 32 33}

著者名	論文名	雑誌名・掲載書名	批判的思考力の定義
花城(1994)	消費者教育における意思決定 ー批判的思考能力の開発ー	消費者教育論(有斐閣)	知識、論点、なんらかの主張が正しいかどうかを理性の導くところによって分析し、査定するための思考
小川・長澤(2003)	家庭科における批判的思考の導入(第1報) アメリカの教師用マニュアルにみる指導法の方路	日本家庭科学会誌 第45巻 第4号	自分自身を内省するプロセスの中枢に位置するもの
奥平・庄司 他(2003)	家庭科における批判的思考力を育む学び 家庭の 仕事に関する小・中学生合同授業を通して	千葉大学教育研究実践研究 第10号	生徒ひとりひとりがさまざまな生活問題に対し、的確に評価・判断した上で自分の意見を確立していく能力
荒井(2009)		新しい問題解決学習Plan Do Seeから批判的リテ ラシーの学びへ(教育図書)	既存の価値や現状を受動的に鵜呑みにするのではなく、注意深く冷静に分析して新たな判断や行為を決定するための思考能力

2. 大学生の批判的思考力の実態

大学生の批判的思考力を批判的思考志向性尺度（30項目）により測定し、因子分析を行ったところ、9つの因子が抽出された。9つの因子ごとに項目の値をまとめ、平均化して表したものが図1

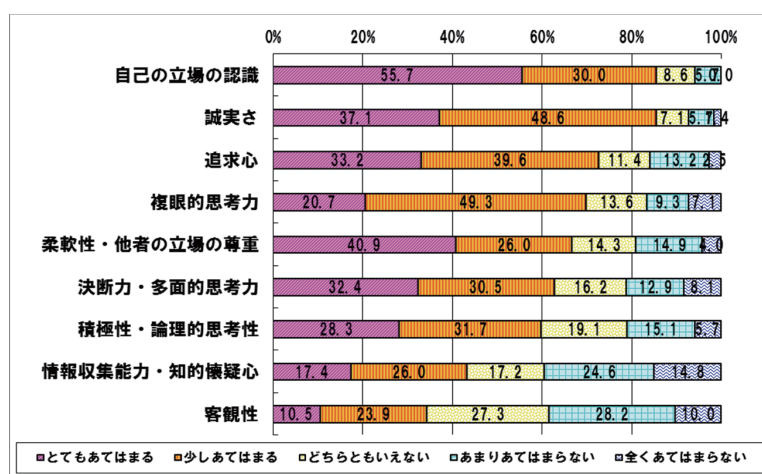


図1 山梨大学生における批判的思考志向性の実態（9つの因子）

である。

9つの因子のうち、「自分の考えもひとつの立場に過ぎない」等の『自己の立場の認識』（85.7%）と「自分の立場に反するものであっても、正しいことは支持する」等の『誠実さ』（85.7%）が最も肯定的回答が多く、反対に肯定的回答が低い因子は、「判断をくだす時には、自分の好みにとらわれないようにする」等の『客観性』（34.4%）や「考え得る限りの事実や証拠を調べる」等の『情報収集能力・知的懐疑心』（43.4%）であった。

以上より、本調査対象者の大学生は、自己の立場を認識し、誠実に物事を判断することができるが、客観的に判断する力、情報を集める力、物事を懐疑的に捉える力が弱い傾向が明らかになった。また、この抽出された9つの因子は、開発する教材において、批判的思考力の重要なファクターとして、提示することにした。

3. 高等学校家庭科における意思決定能力と批判的思考力に関するパソコンを用いた教材開発

(1) 教材開発上のポイント

教材「見て、知って、考えて、消費者として暮らす」を開発するにあたり、これまでの研究結果を踏まえ、開発のポイントをとして、以下の5つを設定した。

表6 教材開発上のポイント

ポイント	内容
1	大学生の批判的思考力実態調査の結果から抽出された批判的思考力に関する9つの因子を批判的思考力のファクターとして提示し、批判的思考力を具体的に捉えることができるように促した。
2	各事例が意思決定の過程や、批判的思考力のどのファクターに対応するのか、学習者が具体的に把握できるようにした。
3	大学生の批判的思考力実態調査の結果を踏まえ、客観的に判断する力、情報を集め、物事を懐疑的に捉える力を身につけることができるよう工夫した。
4	自ら作成したVTRIにより、視覚、聴覚に訴え、高校生にとって身近な例を用いて、より具体的で主体的、体験的に学習できる教材を開発した。
5	個人で主体的に学ぶ学習教材としてだけでなく、グループ活動や発表活動等、多様な授業形態や授業展開での活用が可能になるようにした。

(2) パソコン教材「見て、知って、考えて、消費者として暮らす」の概要

教材「見て、知って、考えて、消費者として暮らす」は「1. 消費者教育について学ぼう」と「2. 消費者として具体的に考えよう」の2つで成り立っている。（図2，図3）

「1. 消費者教育について学ぼう」では、高等学校家庭科における消費者教育分野で学習すべき内容を体系的に学び理解を促すことを目的とし、適切な意思決定や消費行動をとることが消費者の責

任であることを自覚させ、消費行動は資源や環境に影響を与えていることが理解できるように工夫した。学習後に問題があり、知識を確認しながら学習を進めることができる。

「2. 消費者として具体的に考えよう」では、具体的な事例から体験的かつ主体的に学習ができることを目的とした。自作のVTRを活用し、視聴覚に訴えることができるようにしたり、○×問題から自分の生活が環境に影響を与えているか振り返らせたり、自立度のチェックを行ったり、お金に対して現実的に考えることができるように工夫した。事例後には意思決定の過程を確認する画面や批判的思考力のファクターを確認する画面があり、振り返りしやすいように工夫した。

パソコン教材を進めるにあたって、進度に適したワークシートがあり、教材内で得られた知識や考えたことをまとめることができるように配慮した。

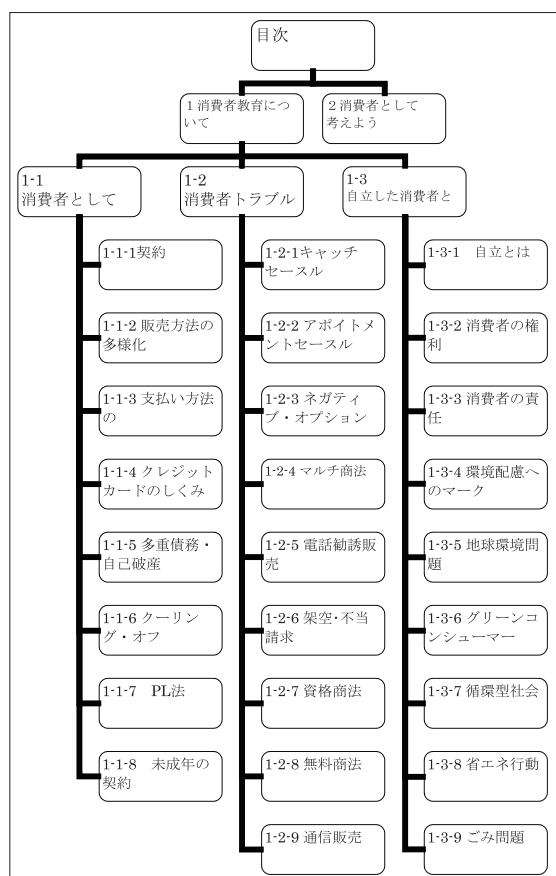


図2 教材の概要「1. 消費者教育について学ぼう」

右図はパソコン教材の具体的な画面である。

1) ポイント1 (図4)

教材の節目に批判的思考力を確認できる画面を用意し、批判的思考力を確認しながら進めるようにした。ファクターをクリックすることで説明が確認できるようになっている。

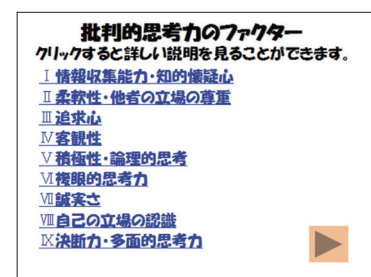


図4 批判的思考力のポイント

2) ポイント2 (図5)

各事例の後にどのような意思決定の過程を経て決定に至ったのか確認することができるようにした。また、どの批判的思考力を用いたのかも確認できるようにした。

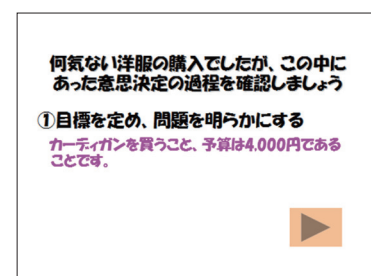


図5 意思決定の過程の確認

3) ポイント3 (図6, 図7)

情報収集能力を身につけることができる教材として図6のように4つの広告を提示し、広告から情報を集め、検討することにより、情報収集することの重要性を検討することができるようにした。広告をクリックすると拡大され、選択肢を比較検討することができるようになっており、買わない意思決定を行った場合にも次の意思決定に進むことができるようになっている。

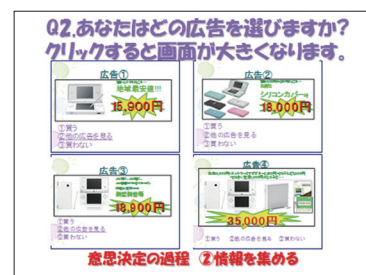


図6 広告の選択

また、知的懐疑心を身につけることができる教材として図7のようなキャッチセールスの対処方法に関する事例をあげ、懐疑的に検討をすることができるようにした。

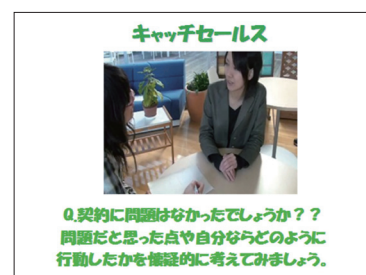


図7 キャッチセールス

4) ポイント4 (図8)

図3の「2. 消費者として具体的に考えよう」にあるように、「2-1-2 店頭での洋服の購入」、「2-2-1 訪問販売」、「2-2-2 アポイントメントセールス」、「2-2-3 通信販売」、「2-2-4 キャッチセールス」、「2-2-5 電話通信販売」、「2-2-6 マルチ商法」において、自作の視覚、聴覚に訴える VTR 教材を作成し、高校生にとって、より具体的で主体的・体験的に学習ができるようにした。図7は「2-1-2 店頭での洋服の購入」を視聴後、VTR 内の購入方法について、批判的思考力の情報収集力、知的懐疑心、追求心をもとに検討を行い、意思決定の過程が確認を行い、自分に置き換えて意思決定を行えるようにした。



図8 店頭での洋服の購入

5) ポイント5 (図9)

多様な授業形態や授業展開での活用が可能になるように話し合い活動や意見交換、ロールプレイングを促すようにした。図9の「2-2-2 アポイントメントセールス」の VTR 視聴後、グループ活動や発表活動に発展させ、他者の意見から自己の意見を客観的に捉えることができるようにした。



図9 アポイントメントセールス

(3) 授業実践

1) 指導計画

表7 授業計画

時間数	授業領域	「見て、知って、考えて 消費者として暮らす」の活用箇所
1時間目	意思決定の過程と批判的思考力	「2.消費者として考えよう」の「2-1契約」
2時間目	契約社会と消費者	「1.消費者教育について学ぼう」の「1-1消費者として」
3時間目	消費者の保護そして自立	「1.消費者教育について学ぼう」の「1-3自立して消費者として」
4時間目	消費者の自立	「2.消費者として考えよう」の「2-4-1自立度チェック」
5時間目	悪質商法①	「1.消費者教育について学ぼう」の「1-2消費者トラブル」
6時間目	悪質商法②	「2.消費者として考えよう」の「2-2消費者トラブル」
7時間目	家庭経営～お金について考えてみよう	「2.消費者として考えよう」の「2-4お金について考えてみよう」
8時間目	環境について考えてみよう	「2.消費者として考えよう」の「2-3環境問題」

2) 授業内容

① 1時間目 意思決定の過程と批判的思考力

「2. 消費者として考えよう」の「2-1 契約」を活用

夏季休業前の授業において、批判的思考力（クリティカルシンキング）について説明を行ってあり、前時の復習から本時の授業を進めた。本時のパソコン教材は、「広告を見て電気製品を買いにいく」、「店頭での洋服の購入」、「靴を購入しよう」の3つのシーンがあり、教材を進めるごとに意思決定の過程を確認することができ、途中で批判的に考える問題が構成されている。生徒は一人一台のパソコンを使用し、各自で教材を進めた。

授業後の生徒の感想は、「普段何気なく考えていたことが、意思決定の過程であることを初めて知ることができた」、「買い物について考えさせられた」等であり、意思決定の過程の認識が高まり、批判的思考力の育成をはかることができたと考えられる。



写真1 授業風景

表8 1時間目 意思決定の過程と批判的思考力 指導案

区分	学習項目	学習活動	教科の評価観点	教材
導入	本時の主題及び目標の確認	夏休み前の活動を振り返る。 批判的思考力（クリティカルシンキング）を確認する。	クリティカルシンキングについて振り返りまとめる。	ワークシート
展開	パソコン教材にて意思決定の過程・批判的思考力を理解する。	教材「見て、知って、考えて 消費者教育」の具体的事例より意思決定の過程を理解する。 意思決定の中にクリティカルシンキングがあることを確認する。 消費行動の中で意思決定やクリティカルシンキングを行っていることを確認する。 クリティカルシンキングの9つのファクターを知る。	【思・判・表】パソコン教材に取り組み、自己決定を行っている。 事例より意思決定を行っていたことを確認する。 【知・理】意思決定の過程とクリティカルシンキングについて認識を深める。	パソコン教材 ワークシート
終結	まとめ	学習内容についてポイントをまとめる。	【関・意・態】本時の学習内容についての自己評価を行う。	ワークシート

② 2時間目 契約社会と消費者

「1. 消費者教育について学ぼう」の「1-1 消費者として」を活用

契約、販売方法の多様化、支払い方法の多様化など消費者市民社会の一員として必要な基本的・基礎的知識の習得が行えるようになっており、用語の説明だけでなく、問題を解き、ワークシートをまとめながら主体的に学べる教材となっている。生徒は一人一台のパソコンを使用し、各自で教材を進めた。

授業後の生徒の感想は、「例題や問題があったので考えながら授業をすることができた」、「わかりやすく消費者のことやクレジットのことを知ることができた」、「もっと知りたいと思った」等であり、主体的かつ意欲的に学習を進めることにより、消費者として必要な知識を身につけることができたと考えられる。

表9 2時間目 契約社会と消費者 指導案

区分	学習項目	学習活動	教科の評価観点	教材
導入	本時の主題及び目標の確認	パソコン教材を使用して「契約」について主体的に学習をすすめることを知る。		
展開	消費者として基礎的・基本的な知識をパソコン教材を用いて学習する。	教材「見て、知って、考えて 消費者教育」を使用し、 ・契約 ・販売方法の多様化 ・支払い方法の多様化 ・クレジットカードのしくみ 等を知り、ワークシートに書き込む。 教材内にある問題を解きながら、進めていく。	【関・意・態】社会の変化と消費者生活について関心を持ち、意欲的に問題を解いている。 【思・判・表】さまざまな例題をクリティカルな視点から思考を深めている。 【思・判・表】パソコン教材に取り組み、メリット・デメリットを考えている。	パソコン教材 ワークシート
終結	まとめ	学習内容についてポイントをまとめる。	【関・意・態】本時の授業の感想と自己評価を行う。	ワークシート

③ 6 時間目 悪徳商法②

「2. 消費者として考えよう」の「2-2 消費者トラブル」を活用

「2-2 消費者トラブル」では、「訪問販売」、「アポイントメントセールス」、「通信販売」、「キャッチセールス」、「電話通信販売」、「マルチ商法」の自作の VTR を全体で視聴した後、登場人物が騙されてしまった理由や自分に置き換えたらどのような行動をとるかを考え、ロールプレイングを通してクラスで考えを共有した。ロールプレイングでは、各グループで消費者役と加害者役にわかれ、断り方や騙し文句を考え、発表を行った。



写真2 ロールプレイング

授業後の生徒の感想は、「実際の映像を見て、トラブルを身近に感じ、怖いと思った」、「自分たちで考えて行動することができ、どう対処すればいいかわかった」、「発表が楽しかった」等であり、消費者トラブルについてより主体的・体験的に学習ができ、また、グループ活動やロールプレイングを行うことで、自己の意見を客観的に捉え、知的懐疑心を持って問題を解決しようとする姿が見られた。

表 10 6 時間目 悪質商法② 指導案

区分	学習項目	学習活動	教科の評価観点	教材
導入	前時の復習及び本時の主題及び目標の確認	前時の復習を行う。 本時の目標を確認する。	クーリングオフや悪質商法について振り返る。	
展開Ⅰ	VTRを鑑賞する。 鑑賞後、問題点や自分の行動を考え、まとめる。 グループ活動を行う。	問題商法やトラブルについての映像を見て、被害者の行動の反省点を考える。 自分に置き換え「私だったらどう行動するか」を考える。 グループで「私だったらどう行動するか」について意見交換を行い、まとめる。	【思・判・表】消費者トラブルに対する教師作成のVTRを見てトラブルに巻き込まれないためにはどのような判断や行動をとればよいのか自らの行動を考えている。 【関・意・態】グループ活動の中で、話し合いが活性化されるように取り組んでいる。	VTR教材 ワークシート
展開Ⅱ	発表を行う。 自分の意見をフィードバックする。	ロールプレイングで発表する。 他のグループの発表を聞き、自分の意見やグループの意見に付け足しや訂正を行う。	【思・判・表】他グループの発表を聞きながら、自分の意見と比較して、異なる意見をまとめ、フィードバックする。	ワークシート
終結	まとめ	学習内容についてポイントをまとめる。	【関・意・態】本時の学習内容についての自己評価を行う。	ワークシート

4. 今後の課題

今後の課題として、高校生の批判的思考力等の実態調査を行い、より高校生の実態にあった教材へと発展させ、高等学校家庭科の授業において活用し、生徒の主体的な学びを促すことができるのか等、さらなる検証を行うことがあげられる。さらに、消費者教育の内容のみならず、家庭科の他領域において意思決定能力・批判的思考力を育むことができるパソコン等、ICT教材を用いた授業を開発することを追究していく予定である。

参考・引用文献

- ¹ 文部科学省，中央教育審議会答申『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について』2008, p15
- ² 国民生活センター，消費者契約法に関連する消費生活相談の概要
http://www.kokusen.go.jp/soudan_topics/data/syoukeihou.html
- ³ 国民生活センター，消費生活相談データベース 2009～2013
http://datafile.kokusen.go.jp/menu/syki_menu.jsp#results
- ⁴ 前掲 1, p25
- ⁵ 前掲 1, p104
- ⁶ 前掲 1, p105
- ⁷ 廣岡秀一，小川一美 他『クリティカルシンキングに対する志向性の測定に関する探索的研究』三重大学教育学部紀要 第 51 巻 教育科学, 2000
- ⁸ E.B. Zechmeister, J.E. Johnson, 宮元博章, 道田康司 他『Critical Thinking』北大路書房, 1996, p 8-10
- ⁹ 佐藤文子，渋川祥子『調理学習による意思決定の育成』日本家政学会誌 vol.58 No10, 2007, p633
- ¹⁰ Harvaed Business Review 『“意思決定と実行責任” 意思決定の思考術』2001, p16-39
- ¹¹ J.G.Bonnice, R. Bannister, 小木紀之, 宮原佑弘 監修『賢い消費者ーアメリカの消費者の教科書』家政教育社, 1998, p12
- ¹² 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 家庭編』1999, p5
- ¹³ 佐藤文子，川上雅子『3 家庭科：これからの家族・家庭生活において求められる視点 家庭科教育法』高陵社書店, 2001, p52
- ¹⁴ 前掲 7, p67
- ¹⁵ 日本家庭科教育学会『家庭科の 21 世紀プラン』家政教育社, 1997, p28
- ¹⁶ 前掲 8, p52
- ¹⁷ 今井光映，中原秀樹『消費者教育論』有斐閣ブックス, 1994, p66-67
- ¹⁸ 日本消費者教育学会『新消費者教育 Q&A』中部日本教育文化会, 2007, p 8
- ¹⁹ 前掲 12, p 8
- ²⁰ 前掲 13, p51-55
- ²¹ 道田康司『批判的思考の諸概念：人はそれをなんだと考えているか』琉球大学教育学部紀要 No59, 2001, p110-111
- ²² 中西千春『批判的思考力を伸ばす』国立音楽大学研究紀要 No37, 2003. 3, p85
- ²³ 前掲 20, p119
- ²⁴ 前掲 8, p 8-10
- ²⁵ 前掲 22, p88-89
- ²⁶ 前掲 21, p205-206
- ²⁷ 長澤由喜子，大学家庭科教育研究会『市民が育つ家庭科：第 2 章 家庭科における批判的思考の導入 住生活の学習指導に見る可能性と課題』ドメス出版, 2004, p149
- ²⁸ 日本家庭科教育学会『生活をつくる家庭科 第 3 巻 実践的なシティズンシップ教育の創造』ドメス出版, 2007, p52-54
- ²⁹ 荒井紀子『新しい問題解決学習 Plan Do See から批判的リテラシーの学びへ』教育図書, 2009, 38
- ³⁰ 前掲 20, p299-318
- ³¹ 小川麻紀子，長澤由喜子『家庭科における批判的思考の導入（第 1 報）アメリカ家庭科教科書の

教師用マニュアルにみる指導上の方略』日本家庭科教育学会誌 第45巻 第4号, 2003. 1, p335

³² 奥平大樹, 庄司佳子 他『家庭科における批判的思考力を育む学び 家庭科の仕事に関する小・中学生合同授業を通して』千葉大学教育研究実践研究 第10号, 2003

³³ 前掲 29